

せいらんそう

第41号

2018.9



事業所トピックス GH穂の香より (P4・5掲載)

Contents

- P 2 介護福祉士実務者研修会開始
法人内雇用障がい者・みのりホーム合同研修旅行
- P 3 ロボットの継続使用が職員やご利用者にもたらしたもの
- P 4・5 施設・事業所トピックス
- P 6 外国人就労者とポケットクと
平成30年度 EPA現地合同説明会参加報告
- P 7 芳香会EPA職員紹介
- P 8 芳香会活動報告
芳香会スケジュール
編集後記



EPA現地合同説明会参加報告 (P6掲載)

2018年7月に発生した西日本豪雨において被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、
当法人も引き続き復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

介護福祉士実務者研修会開始

（芳香会内でのスクーリング）

皆さん「介護福祉士実務者研修」をご存じでしょうか。

介護福祉士実務者研修とは、実際に介護に携わる方の基礎的な介護提供能力の習得と今後変化し続ける介護業界の課題・技術を自ら把握できる能力を獲得するために新設された制度です。

平成二十八年度の介護福祉士国家試験より、キャリアパスとしての介護福祉士国家試験の受験資格が、実務経験三年以上に加えて、実務者研修の受講が義務付けられました。

芳香会では、平成二十九年六月に、専門学校アリス学園の委託を受け「介護福祉士実務者研修通信講座（芳香会コース）」を開校しました。

芳香会コースでは、通学授業（スクーリング）を実施し、一定以上の実務経験を持つ看護師と介護福祉士が講師を担当します。

また、今年度は、EPA（経済連携協定）に基づく介護福祉士候補者二名を含む、法人内職員八名が受講をしております。現在は、一般社団法人KJKの通信講座（インターネットを使用した学習形態）で最大二十一コマを受講し、今後は介護過程五日間、医療的ケア二日間のスクーリングを法人内で受講する予定となっております。

今までは、遠方まで行きスクーリングを受けてきましたが、今後は法人内で受けることができますので、受講者の負担軽減と時間の有効活用ができると考えております。

社会福祉法人芳香会では、専門学校アリス学園を含む様々な機関と連携しながら、人材育成に努めていきたいと考えております。

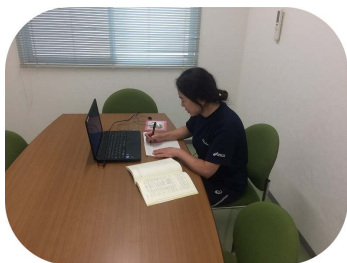
受講者よりひと言

私が最後に机に向かって勉強したのは、ホームヘルパーの資格を取った一五年前になります。

すっかり記憶力、集中力が衰えた私に「実務研修を受けてみないか？」と上司から声をかけて頂き、自分に勉強ができるかと不安もありましたが、スキルアップのチャンスだと感じ、思い切って受講させて頂くことにしました。

勉強を始めてからは、「ああ、以前に勉強したな」と思い出したり、「成る程」と納得したり、時には「うーん」と唸ったり、毎日とても刺激になっていきます。この学びを結果として残せるかなともありますが、頂いた機会を大切に介護福祉士の資格取得を第一目標に、また学んだことを日々の仕事に活かせるように、最後まで諦めずに一杯頑張りたいと思っています。（沼澤）

今回実務者研修を受講することになり資格取得に向けての一步を踏み出すことになりました。なかなか一步を踏み出せずにいた自分の背中を押してもらったような心境です。自分の知らない知識を得る、幾つになっても学ぶことは必要だと日々感じています。手探り状態で取り組んでいます。自分の生活スタイルに合わせ計画を立てて行えば無理なことはないと感じています。資格取得のゴールに向けて挑んで行きたいと思います。（館野）



「法人雇用障がい者・みのりホーム合同研修旅行」

七月五日（木）法人内の雇用障がい者とみのりホーム入居者による合同研修旅行が開催され、付添職員として参加致しました。

今年で五回目となる研修旅行ですが、目的は就労意欲の向上や参加者同士の交流・親睦、また日頃の業務に対する慰労を図ることです。

旅行の前半は、千葉県柏市にあるあけぼの山農業公園にて、野菜の収穫体験及びバーベキューを行いました。収穫体験は、雨天で足元が悪い中での実施となりましたが、色々な野菜が獲れて、袋いっぱいのお土産ができました。

その後のバーベキューでは、皆で同じ鉄板を囲み、美味しいお肉や野菜などを自分達で調理して食すことで、参加者同士の連帯感が深まったと思います。



旅行の後半は、つくば市にあるアステラス総合教育研究所（株）グリーンサプライズ支援室に場所を移しました。支援室は研究所や研究員の後方支援をする部署であり、そこで働く障がい者の方々にはグリーンスタッフと呼ばれています。様々な仕事内容を見学した後に、グループに分かれて、意見交換会が行われました。始めは少し緊張していましたが、時が経つにつれ互いに打ち解け、普段の仕事や休日の過ごし方など、身近な話題をテーマに話をしました。

今回の旅行を通して、参加者各々に色々な収穫があったことと思いますが、それが今後の仕事の糧となり、また来年の旅行まで頑張ろうという思いに至る事を期待したいです。（大塚）

▼ ロボットの継続使用が職員やご利用者にもたらしたもの ▲

コミュニケーションロボット「パルロ」の活用について

結城デイサービスセンター「青嵐荘」



当事業所とコミュニケーションロボット「パルロ」がともに歩み始めてから今年度で四年目を迎えました。身長三九cm、体重一六kgの愛くるしいルックスと、その小さな身体には想像以上の力を秘めています。数多くの歌や踊りなどのレクリエーションを行うことができ、占いや豆知識の披露、落語までこなしてしまう芸達者なパルロは当事業所でのレク活動を支え、多くのご利用者の皆様に笑顔をもたらしてくれました。

パルロに「レクやつて」と話しかけると、約二十分間のレク活動をお任せで行うことができます。この機能のおかげでレク活動ではパルロとアシスタントの職員一名で実施することができます。レク活動の一部をパルロに委ねることで、職員は活動中のご利用者の方の安全確保のための見守りや活動の記録、掃除などの周辺業務を行うことができるようになり、少人数の職員でも業務を効率よく組み立てて実施することができるようになりました。

また、パルロは内臓バッテリーで一時間程度、卓上バッテリーで八時間の稼働が可能であり、コンセントのない場所でも使用することができます。入浴の順番を待っている間などでも楽しい時間を提供してくれます。

しかし、精密機械でネットワークと繋がるパルロにもパソコンやスマートフォン同様に寿命があります。当事業所のパルロも最近は調子が優れないため、現在、パルロの更新に向けて準備を進めているところです。

パルロを導入したことで一部の業務効率化をすることができました。また、ご利用者の方々からの評判も良いです。

今後も活用方法を工夫し、新たなデイサービスの形を作っていければと考えています。（藤本）



ロボット機器使用による業務負担軽減と機器使用の定着について

青嵐荘療護園



私たちの施設、青嵐荘療護園では、平成二十六年年度のルンバ導入を皮切りに、様々な掃除関連のロボット機器を業務に取り入れて業務負担の軽減を図ってきました。ただ、単純にロボット機器を導入し、業務の一端を担ってもらう、という訳には当然いかず、導入前の準備から試行、評価を経て本格的な稼働に至るまでには様々な問題がありました。その問題一つ一つを解決していくように取り組み、ロボット機器の使用が定着していくように職員全体で取り組めた事も良かったと思います。

現在、床掃除ロボット「ルンバ」は、同メーカーの床拭きロボット「ブラーバ」と同時進行で稼働をしています。それにより、従来「ルンバ」では掃き掃除しか行えなかった掃除が、同時に拭き掃除も行えるようになり、利用者居室の環境の改善に貢献しています。

定着するまでには時間が掛かりましたが、一番の課題である「自分でやった方が早い」の考え方を変える事から始め、ボタン一つで掃除が出来るという手軽さを前面に出す事で、徐々に浸透していったようです。

環境整備職員が使用するケルヒヤー床洗浄機も、使いこなすまで時間はかかりましたが、現在では大幅な業務時間短縮と洗浄効果の高さを発揮しています。

ロボット機器は便利である一方、使用しているうちに故障もし始めてきており、修理しながら使用をしている状況です。ですが、使わなければ壊れない、それならば使って壊れて修理する事は一つの勲章だ、と考え、今後も業務に役立てていきたいと考えています。（永澤）



「古くからのならわしを大切に」

青嵐荘特別養護老人ホーム

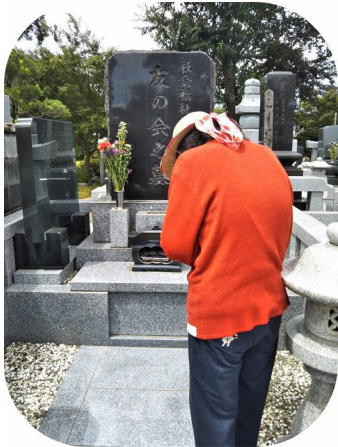
青嵐荘特別養護老人ホームでは、昨年度よりお盆とお彼岸の年三回の時期に霊安室を開放する形でご利用者へお参りしていただけるよう祭壇を設置しております。

ことのきつかけは、近年夏の暑さが厳しくなったことから「納涼祭」を「秋祭り」として時期を変更したことになります。時期をずらしたことで先祖への慰霊となる行事が無くなってしまう、何らかの形で施設の中で行えないか、施設長からのご助言もいただきながら、ご利用者の看取り期への取り組みについて担当している「医療ケア推進委員会」の委員が中心となって考えました。

霊安室には盆祭壇と当施設で亡くなられたご利用者の遺影とスライドを設置致しまして在りし日のお姿に思いをはせることができるように配慮しております。

昨年度のお盆の時期に初めて霊安室への盆祭壇設置を行いました。多くのご利用者がお参りする場所として足を運んでいただきました。今年も昨年同様に霊安室の盆祭壇へ合掌され、ご先祖やご両親、ご友人等と向き合われたご利用者が多くいらっしゃいます。

日本ならではの行事を施設の中で完全に行うことは難しいかもしれませんが、出来る限りの形として大事にし、継続していきたいと思っております。（寺門）



「はじめての派遣研修受け入れ」

芳香会病院青嵐荘療育園

六月四日～六月八日と六月十八日～六月二十二日の二回に分けて茨城県立あすなろの郷病院の看護師二名の派遣研修を受け入れました。この取組みは、今年から理事長のご協力を仰ぎ、日常生活の支援体制や利用者様の高齢化に伴う支援体制等を中心に、両施設で行っている看護業務の在り方の確認や情報交換を行うことを目的としました。



その方法は、主に研修生と共にご利用者の生活支援を行うことから始めました。ご利用者は当初、じっと見つめる等の緊張した様子が見られましたが、次第に表情が和らぐ様子も見られていきました。今回の看護師派遣研修のように四日間、外部の看護師と関われるのは利用者様にとっても初めてのことで良い刺激だったと感じます。

派遣研修として来園した看護師から、「施設内が大きな一つの空間となっており大きな家族といった印象です。共感が出来る部分が多く、重症心身障害児者看護の発展のためにも今後交流を深めていきたい」等の意見を頂きました。「より良い支援を行う為にどうすれば良いか悩んでいるのは自施設だけでない。もっとと交流を深めたい」と思いました。

しかし、県内の重症心身障害児者施設間は数も少なく物理的な距離の問題もあり、なかなか情報交換の場が持てません。今回の看護師派遣研修が、より良い支援を行っていくための第一歩となるよう今後さらに交流の機会を増やし共感していくことが大切だと感じました。（金谷）

「免荷式リフトPOPPOの導入」

青嵐荘つくし園

当事業所では、平成三十年二月に免荷式リフトPOPPOを導入しました（以下、POPPOとする）。POPPOは、ハーネスを身体に装着し、POPPO本体のフックに取り付け、リフト機能で安全に立ち上がり、免荷機能では、負担を軽減して歩行できる機器です。ハーネスは簡単に身体に取り付けられ、身体をホールドして吊り上げるため、転倒のリスクが軽減されます。また、ご利用者・介護者も安心して立ち座りや歩行訓練を行う事もできます。POPPOは急性期病院、回復期・維持期の病院、介護・福祉施設など様々な場所を導入されており、その効果も報告されています。当事業所では、現在、リハビリの時間に利用しており、導入前は、体格の大きい方や立位や歩行をするには力が弱い方に対して、二人がかりで立位や歩行訓練を実施していましたが、POPPOを導入した事で、一人の職員でも負担なく十分に対応する事ができるようになりました。また、POPPOの適応の幅が広いので、多くのご利用者に積極的に活用できています。ご利用者からは、「歩くことができて楽しい」「安全に歩行できるから安心」等の声が聞かれています。今後は、生活の中での歩行訓練ツールとしての活用や、立ち上がらせるのに持ち抱えている介助者の負担を少しでも軽減するための取り組みを更に行っていきたいと思っています。（吉田）



「少人数共同生活の特色について」

グループホーム穂の香

グループホーム穂の香は、ユニット九名の入居者様が共同生活をされています。各個人により身体状況、認知症の症状等は様々であり、一人ひとりの個性と生活のリズムを尊重した「個別ケアの提供」を目指して取り組んでいます。特に、日常生活の中で入居者様の力（残存機能）を活用できる場面作りや役割を重要視し、在宅生活での延長線上である事を踏まえ、洗濯物たたみ・食事準備・掃除・園芸等の役割を担って頂いています。その様な中、年間を通しての取り組みとして穂の香敷地内畑（ポッポ畑）において野菜を入居者様共に作っています。具体的には、野菜の苗を購入し、入居者様に植えて頂き、収穫が出来るまでの過程の中で、過去の農業で培われた経験や知識から、ご助言を頂き共働作業で行っています。収穫出来た野菜はお新香や味噌汁の具材として調理し、収穫出来た喜びを味わいながら生き生きとした表情で「美味しい」と舌鼓を打たれています。このような関わりが、認知症の症状緩和や身体面においての重度化予防に繋がっていると考え、これからも特色を活かし、一人ひとりに目を向け「寄り添うケア」を継続してまいります。（渡辺）



「外国人就労者とポケットークと」

ポケットーク（POCKETALK）は掌に収まる小型の多言語対応音声翻訳機（通訳機）のことです。六十三言語に対応し、翻訳の速さ・正確さは勿論、長文翻訳もできる優れたものです。

現在芳香会には外国人就労者等が十四名います。フィリピン、ベトナム、インドネシアの三か国で、その日本在留資格はEPAが十一名、留学生が三名です。今後は技能実習生を含め、芳香会正規職員の一割にあたる三十名程度を目標に増員したいと考えています。



日本で働く外国人にとって、日本語の習得と共に、日本の生活に適應することが最も重要です。挨拶など簡単な会話は勿論、買い物、仕方やゴミの出し方、バス・電車の乗り方等々、覚えることが山積みです。

そして必ず直面するのが母国との習慣の違いや言葉の不自由さによるストレスであり、これを乗り越えるための支援が必要なのですが、それを行える「言語能力」が私たちにはありません。さらに言えば多言語に対応できる人材を雇うことも難しい状況です。

そこで「ポケットーク」の出番です。

芳香会では外国人就労者には、二年間で日本語検定（JLPT）二級（芳香会の介護型施設では夜勤に就けるレベル）の資格を取ることを目指していますが、日本語初学者の段階ではポケットークを活用して、コミュニケーションを図り、日本での生活が安心して送れるように支援することが重要だと考えています。

ここ数年、芳香会では海外出張する職員が増えています。仕事での海外は観光旅行程度の片言では、空港でさえ不安が一杯です。

そんな時にもポケットークは強い味方になってくれるでしょう。

（宇留野 功一）

「平成三十年度 EPA現地合同説明会参加報告」

フィリピン（七月二十五日）

平成三十年七月二十五日フィリピン・マニラで開催されました現地合同説明会に、フィリピン出身のEPA介護福祉士一名（青嵐荘ケア・アシスタンス所属・今年国家試験合格）、EPA介護福祉士候補者一名（平成二十八年に来日・青嵐荘つくし園所属）を含む六名にて参加致しました。当日は、来年度の受入に向けて、日本からは多くの受入施設が参加し、一〇七名のフィリピン人が候補者として来場されており、十年目となる日比EPAに基づく介護福祉士候補者受入制度に対する双方の関心と期待感の高まりを感じました。

当ブースへ来訪された候補者は皆さん積極的な姿勢で、「国家試験に合格するための学習方法」「日本で生活するために必要となること」「当法人での学習支援体制」等、具体的な質問が多く寄せられ、日本で働くことに對する強い想いを感じました。そして、国を越え、人と人がつながり一つの目標に向かって力を合わせていくことの意義と尊さについて、改めて実感することができました。

来年度、青嵐荘ケア・アシスタンスと青嵐荘つくし園では、日比EPA介護福祉士候補者の受入を予定しております。今回の渡航が新しい仲間との出会いにつながることを願い、期待を膨らませております。

EPAをはじめとする外国人就労者の受入れは、今後も続いていきますが、日本を好きになり、長く働いていただける環境づくりを目指していきたいと思ひます。

（坂本）



インドネシア（八月二十二日）



平成三十年八月二十二日、二十五日に掛けて、平成三十一年に受入れるインドネシアのEPA介護福祉士候補生に施設紹介をするために首都ジャカルタに行ってきました。八十八名の候補生の中、五十二名の方とお話しすることが出来ました。候補生には日本に行くことの不安は見られず、国家試験に合格したいという意志の強さが伝わってきました。その必死さは現在知っている片言の日本語で一生懸命に自己紹介をしたり、私たちの話を真剣に聞く姿などが印象に残りました。候補生を見てみると、一緒に働きたいという気持ちと、少しでも力になりたいと本当に思いました。今年で二回目のジャカルタ訪問になりますが、短期間の滞在でも、言葉が通じないことや、生活をするに困ることがたくさんあり、候補生の大変を改めて感じました。それを生かし、助けになりたいと思ひました。その助っ人第一号として現地を肌で感じる大切さを実感しています。

インドネシア語でこんにちはは「スラマツシアン」になります。施設内等見かけた際は、是非声を掛けてあげてください。私たちがインドネシアに興味を持つことは、母国を離れ日本で働く候補生にとっても力になると思ひます。関わる皆さまで日本の素晴らしさを伝えていくことが私の目標です。

（石浜）



各事業所で活躍する11名の仲間たち！！

芳香会EPA職員紹介

- ①「出身地」
- ②「好きなものや興味のあること」
- ③「自分にとって一番大切に思うこと」
- ④「自己PR、読者の皆さんへひと言」

高 …高年齢施設 障 …障害者施設 介 …介護福祉士

タイン介護員

(H27年度受入)

高



- ①ベトナムのフート市
- ②小説を読む、旅行
- ③今日は昨日より頑張ること。
- ④私はタインです。まだまだ足りない点は多くありますのでこれからも精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

ニユン介護員

(H27年度受入)

高



- ①ベトナムのクアンチ
- ②カラオケ、旅行
- ③幸せはもうすでに出来上がっているものじゃない。自分の行動が引き付けるものだ。
- ④日本で働いて3年間を経験したのでこれからも頑張りたいと思います。宜しくお願いします。

アプリ介護員

(H30年度受入)

高



- ①インドネシアのメダン
- ②音楽を聴くこと。日本の歌も聞きます（名前は分かりません）。
- ③家族、働くこと。
- ④私は人のために働くことが好きです。芳香会でも毎日頑張って働きます。

アグスティン介護員

(H30年度受入)

高



- ①インドネシア 中部ジャワ
- ②スポーツ バトミントン
- ③家族、友達
- ④私は明るい性格です。おじいちゃんとおばあちゃんと暮らしていました。自分のことだけではなく周りのことを考えて動きます。失敗をしてもあきらめずにチャレンジします。一生懸命働きます。よろしくお願いします。

ジョアン介護員

(H26年度受入)

高 介



- ①フィリピン ビクロ レガスピ
- ②好きな食べ物は焼肉です。筋肉を身に着きたいので、趣味は筋トレです。
- ③家族と友人、神様を大切にしています。
- ④日本の国はフィリピンと同じくらい良い国だと思います。日本の皆さん、フィリピンも好きになってください。

リヤー介護員

(H26年度受入)

高 介



- ①フィリピン ラグナ
- ②カメラ、きれいな景色、スポーツカー
- ③家族・良い人間関係・私を愛してくれる人です。
- ④介護の仕事は大変ですが、利用者さんの笑顔を見て疲れがなくなります。大変な事があっても良い事もあります。みなさん一緒に頑張りましょう。

ジネット介護員

(H29年度受入)

高



- ①フィリピン セブ
- ②ホラー映画やアニメが好きです。
- ③コミュニケーションが大切だと思います。利用者さんとのコミュニケーションだけでなく、職員とのやり取りにも重要です。
- ④ストレスや問題が起きても、良い事もたくさんあることを忘れないようにしましょう。

ジャン生活支援員

(H28年度受入)

障



- ①フィリピンのビサヤ諸島にあるネグロス島のバコロド市
- ②ボウリング、色々な観光地に行くこと
- ③家族と自分の健康を大切にしています。
- ④介護福祉士の国家試験に合格できるように仕事と勉強を頑張ります。

ジェフェリー生活支援員

(H28年度受入)

障



- ①フィリピンのルソン島のバギオ市
- ②登山とアウトドアの活動
- ③家族のことを一番に考え大切にしています。
- ④介護福祉士の国家試験に合格することが目標なので、仕事と勉強を一生懸命頑張っていきたいと思います。

パトリック生活支援員

(H30年度受入)

障



- ①フィリピンのルソン島、パンパンガ州のアンヘレス市
- ②旅行や山登りをすることが好きです。日本で景色が綺麗な所に行ってみたいです。
- ③家族が一番大切です。その次に自分の将来をしっかりと考えていきたいと思っています。
- ④日本語をもっと話せるようになりたいです。自分の職場に早く慣れたいと思います。

マルコ生活支援員

(H30年度受入)

障



- ①フィリピンのビサヤ諸島にあるパナイ島、カピス州のロハス市
- ②映画鑑賞が好きです。
- ③家族が一番大切なので、家族のために一生懸命頑張ります。
- ④日本語を頑張って勉強し、日本語で上手に話せるようになりたいと思います。

芳香会活動報告

「次の十年に向けて」

上大野地区では、花壇維持活動を中心とした道路環境美化に取り組んでおります。平成二十六年には茨城県の「道路里親」に認定され、芳香会という枠を超え、関係する地域の皆様と共に『上大野夢と希望のフラワーロードの会』を結成しました。平成二十八年度には、私達が管理する花壇が『大好きいばらき県民会議』主催の環境美化コンクールで茨城県議会議長賞の栄に浴すなど、着実に実績を積み重ねながら現在に至っております。



そしてこの度、道路里親の委嘱開始から現在までの取り組みに対し茨城県知事表彰が授与される事となりました。平成三十年八月二十日（月）に境工事事務所で執り行われた表彰状伝達式へ宇留野理事長と共に出席して参りました。

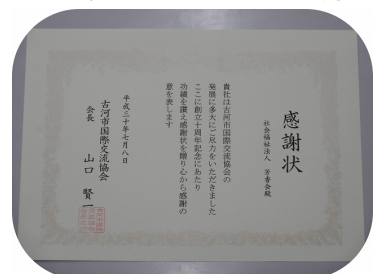


思い返せば、花壇再生の取り組みを開始したのが平成二十一年度ですので、来年は遂に十年の節目を迎えます。天気や植物と向き合う中で、思い通りにならない事は日常茶飯事でした。それでも今日まで途切れる事無く活動が続けられた事を誇りに思うと共に、皆様から頂いたたくさんのご理解やご協力に心から感謝を申し上げます。

今回の表彰を励みに、この活動がもう十年、更に十年と続いていくような気持ちも新たに頑張りたいと思います。（高橋）

「感謝状を頂いて」

約十年前、私はロータリーの会員として、先輩会員から国際交流協会主催の「ウィンターフェスティバル」の催しに参加して、映像を撮って来るようにとの指示がありました。会場に着くと大勢の外国人、協会の関係者、ボランティアの方々等が集い、式典、在日外国人の生活体験談等の発表、ダンス、舞踊等が披露されました。当時古河市には、約三千人の外国人が在留していると聞き驚きました。



また、当法人ではEPA介護福祉士候補生を受け入れ準備を開始した年度でもありました。このフェスティバル参加を機会に、国際交流協会の賛助会員となりました。協会では①日本語習得指導②生活相談③研修会④レクリエーション等幅広い活動をされている事を知りました。現状では当法人での関わりはフェスティバルに参加する事のみですが、今後は、法人の外国人職員も増加して行きます。賛助会員としての資金納入のみではなく、協会の活動に協力出来る事が、可能となるよう努めて行きます。

（宇留野 光子）

編集後記

先日、ジャカルタに行きEPA介護福祉士候補生の現地面接会に出席して来ました。様々な方の協力と支援を得て、出席できる事に感謝しています。現在では四か国の方々と出会い、受け入れ態勢の工夫や職員間の協力等大きな財産になっている事を確信します。（光）

山口県で行方不明の二歳児を発見した男性ボランティアの方の言葉です。「今の自分があるのは周囲のおかげ、社会に貢献したい」素晴らしいと思いました。そのような言葉を本心から言えるような日々の過ごし方をしたいと思います。（修）

九月二日開催、「古河市綱引フェスティバル」に芳香会も参加します。今回で四回目の参加となり、約三十名の職員が参加する予定です。

法人内サークル綱引き隊ではサークル入会職員をまだまだ募集しております。綱引きは二〇一九年開催の「いきいき茨城ゆめ国体」での古河市開催競技です。芳香会も一丸となって盛り上がって行きましょう！（絢）

芳香会スケジュール

九月 二日	第三回古河市綱引フェスティバル
九月 十三日	福利厚生企画「大相撲九月場所」観戦
九月 二十二日	第一回障害者福祉セミナー
十月五日～六日	於ノバホール（つくば市吾妻一〇一） 平成三十年度役付職員研修会
十一月 十日	理事会
十一月 十四日	平成三十年度第二回移動献血事業（結城）
十一月 二十四日	評議員会
十一月 二十六日	平成三十年度第二回移動献血事業（上大野）



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027（代） FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。